

4. 連携によるケア（口腔内吸引、胃ろうによる経管栄養）の試行

(1) 実施施設

指導看護師養成研修の修了した 129 人の指導看護師は、各施設に戻り研修計画の立案、施設内研修の実施に着手した。

ただし、指導看護師養成研修直後に 2 施設でそれぞれに以下の理由でモデル事業の推進が困難となり、辞退する旨の連絡があった。また、モデル事業開始後、12 月に入って 2 施設で中止の申し出があり、最終的にモデル事業を終えた施設は 125 となった。

	辞退人数	備考	対象人数計
養成研修修了者			129人
指導看護師養成研修終了後			
モデル事業辞退施設 (いずれも9月)	2人	東京：インフルエンザ対策など 静岡：施設内協調不調	127人
モデル事業開始後			
モデル事業中止施設 (いずれも12月)	2人	京都：指導看護師が介護休暇を取得。施設内対応困難 兵庫：対象入所者不在（疥癬）	125人

都道府県別実施数			
北海道	4	京都府	3
青森県	3	大阪府	5
岩手県	2	兵庫県	3
宮城県	3	奈良県	1
秋田県	2	和歌山県	3
山形県	3	鳥取県	0
福島県	5	島根県	3
茨城県	2	岡山県	4
栃木県	1	広島県	2
群馬県	1	山口県	2
千葉県	4	香川県	2
埼玉県	0	徳島県	1
東京都	1	愛媛県	0
神奈川県	8	高知県	0
新潟県	5	福岡県	1
富山県	2	佐賀県	3
石川県	3	長崎県	3
福井県	4	熊本県	2
山梨県	4	大分県	3
長野県	1	宮崎県	5
岐阜県	3	鹿児島県	4
静岡県	3	沖縄県	0
愛知県	8		
三重県	3	合計	
滋賀県	0	125施設	

(2)実施予定の対象者

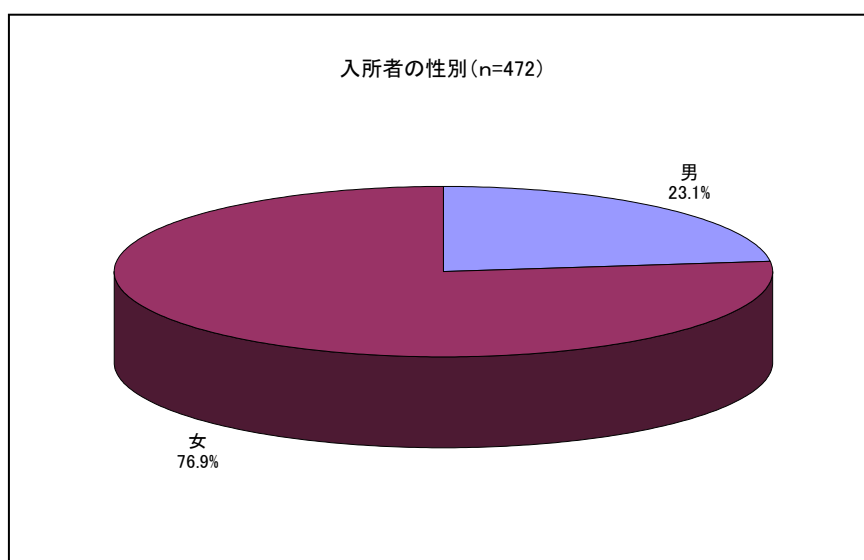
125 施設から提出されたモデル事業の計画では、ケアを受ける予定者は 125 施設で 472 人となった。対象者の属性は以下のとおりである。

①性・年齢

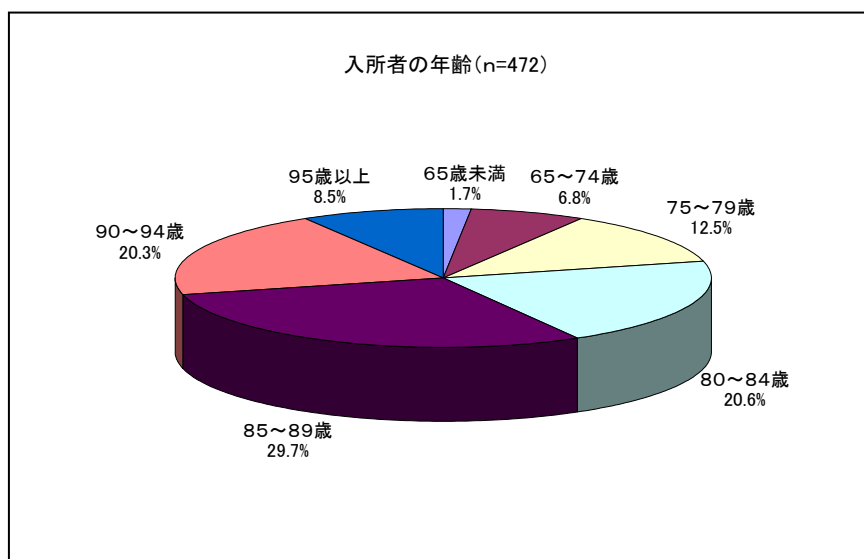
性別では、「女性」が 76.9%を占めている。

年齢別では、「80 歳代後半」が 29.7%を占めてもっとも多く、次いで「80 歳代前半」(20.6%)、「90 歳代前半」(20.3%) が多くなっている。

図表 1 7. 入所者の性別



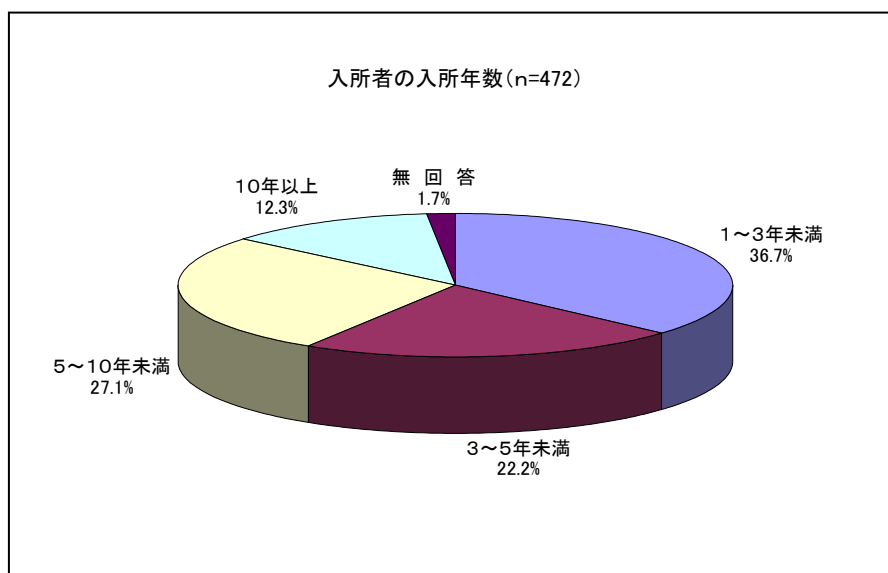
図表 1 8. 入所者の年齢



②入所年数

入所年数を見ると、「1～3年未満」が36.7%となっており、「5年未満」を含めると約6割を占めている。「10年以上」の入所者は12.3%である。

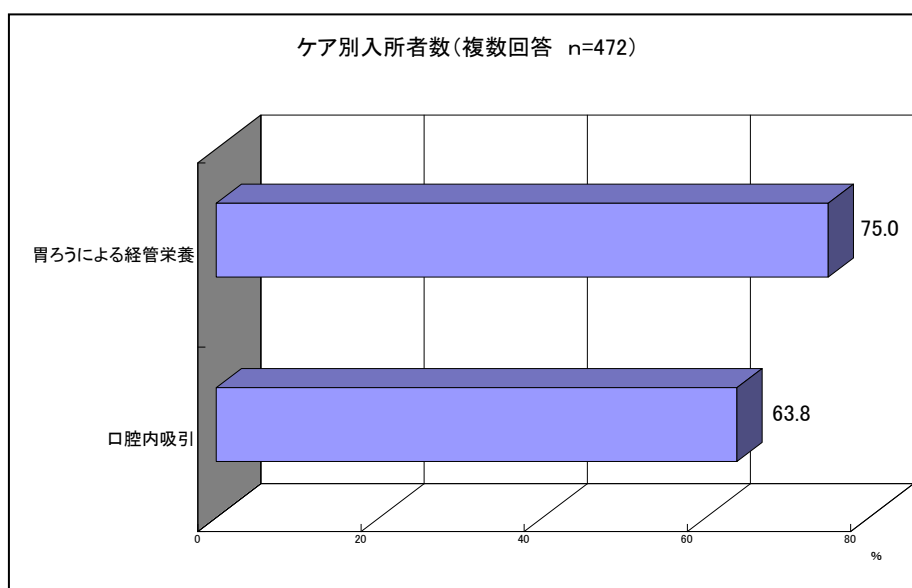
図表19. 入所者の入所年数



③ケア

2つのケアの対象となる入所者は、「胃ろうによる経管栄養」が75.0%であり、「口腔内吸引」が63.8%となっている。両方のケアの対象者は183人である。

図表20. ケア別入所者数



(3) 事例検討会

事例検討会の実施状況についても把握したところ、以下のような結果となった。

事例検討会を1回以上実施した施設は71件あり、全体の56.8%に留まっている。2回実施した施設が18.4%と多くなっていて、もっとも多い実施回数は5回であり、4施設で行われている。試行期間中に月1回以上の開催(3回以上)があった施設は20.4%である。なお、指導看護師養成研修で説明した実施ガイドラインの中では、月1回程度の事例検討会の開催を推奨した。

実際に開催した施設では、「すぐに具体策を立てたので、統一したケアを提供できるようになった」「検討会を通して、改めてその利用者の現在に至る経緯やいまの状態が理解でき、新たな視点からの学びになったようである」「入所者を同じ視点でケアすることの大切さを再確認できた」というように、振り返り・気づきに貢献できている。

なお、実施していない施設でも、実際には現場での日常的な対応の中で行われていたようであり、自由回答には「気づいたときに話し合った」「常に現場レベルでの検討、アセスメント・ディスカッションを頻繁に行った」「時間を確保しての検討会を開催することはできなかったが、不安に思うことや分からないことなどを随時聞くことで対応できたと思う」といった意見があった。

図表21. 事例検討会の実施状況

(件、%)

開催回数	施設数	構成比
5回	4	3.2
4回	8	6.4
3回	16	12.8
2回	23	18.4
1回	20	16.0
0回	44	35.2
無回答	10	8.0
合計	125	100.0

また、指導看護師の自由回答に「看護師、介護士共に研修参加し、方法や教材など検討してもよいかと思う」という意見もあった。

(4) 検証方法

①実施期間

検証全体のおおまかなスケジュールは以下のとおりである。ただし、実際の進行は現場の実情（シフトの調整、感染症などへの医療的な対応など）により前後することが見込まれた。

時期	全 体	事前事後 評価	プロセス 評価	日 誌	質問票	施設訪問
9月1～2日	指導看護師 養成研修	指導看護師 養成研修後 に実施				
9月上旬	施設内研修 の実施	看護職員に 対して施設 内研修後に 実施	介護職員に 対して施設 内研修後に 実施	試行開始直 後に介護職 員により記 録 (7実稼働日)		
	施設内試行 の開始					
10月上旬			施設内研修 後1ヶ月目 に実施			
11月上旬			施設内研修 後2ヶ月目 に実施	試行開始後2 ヶ月後に介 護職員によ り記録 (7実稼働日)		
12月上旬			施設内研修 後3ヶ月目 に実施			
12月21日	施設内試行 の終了		試行終了後 に実施		試行終了後、施 設内関係者に より回答	
1月12～18日						施設訪問の 実施
2月	指導看護師 意見交換会					

②試行中の留意点

- ▶ 入所者（本人もしくは家族）にはモデル事業の概要を説明し、同意書を取り交してもらった
- ▶ 施設長等は、モデル事業実施期間中は、指導看護師及び対象となる看護職員と介護職員が、円滑に試行できるような勤務体制に配慮するよう要請した

試行期間中のチェックポイント

	実施内容	評価方法	留意点
9月	第1回 プロセス評価	介護職員の自己評価の実施 指導看護師の他者評価の実施	日程を確認して実施
	第1期日誌作成開始	研修終了後の7実働日での日誌の記入	シフト表で確認
	施設訪問日程	日程の確定	訪問先施設との調整
10月	第2回 プロセス評価	介護職員の自己評価の実施 指導看護師の他者評価の実施	日程を確認して実施
11月	第3回 プロセス評価	介護職員の自己評価の実施 指導看護師の他者評価の実施	日程を確認して実施
	第2期日誌作成	試行開始後2ヵ月目から7実働日での日誌の記入	シフト表で確認
12月	第4回 プロセス評価	介護職員の自己評価の実施 指導看護師の他者評価の実施	日程を確認して実施 (21日までに終了)
	第5回 プロセス評価	介護職員の自己評価の実施 指導看護師の他者評価の実施	日程を確認して実施 (24日までに終了)
	質問票への評価	各職員での記入	各職員への告知 (24日までに終了)

③ヒヤリハット等、アクシデント対応での各報告様式への記入上の留意点

- ▶ ヒヤリハット等報告様式及びアクシデント報告様式は、日誌記載期間中のみではなく、モデル事業実施期間中の報告が必要となる
- ▶ 記入した両報告様式は、最終的に指導看護師が回収し、モデル事業終了後、提出する

様式	記入要件	留意点
ヒヤリハット等報告様式	<ul style="list-style-type: none"> ・手技が手順どおりできなかった場合及びヒヤリハットに気がついた時に記入する ・本様式は介護職員が記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・記入方法については教材の中の「ヒヤリハット等及びアクシデント報告様式の記入について」を参照する
アクシデント報告様式	<ul style="list-style-type: none"> ・事故発生時に記入する ・本様式は指導看護師が記入する 	